

ハルジオン (春紫苑)

名前の意味^{いみ}：春に咲くシオンの意味。花が似ている。シオンは、大型のキク科の植物で、平安時代から「しおに」の名前で栽培^{さいばい}され、「枕草子」にも紹介されている。

分類：双子葉類、キク科、ムカシヨモギ属

好きな場所：日当たりのよい

道ばた、手入れの悪い庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：北米

特徴：地面を円くおおう、さじ形の葉、

中心が黄色いピンク色の花

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

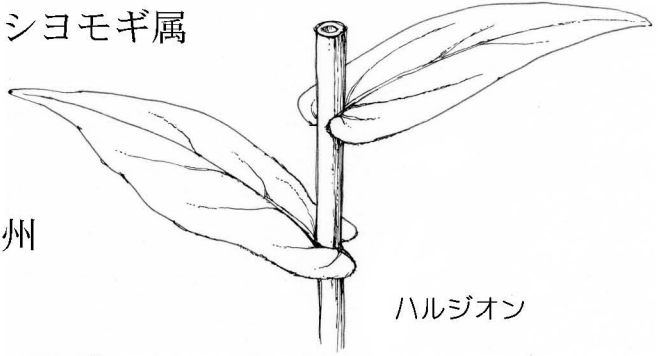
花弁の数^{ごうべん}：合弁^{れつ}、5裂

(肉眼ではよくわからない)

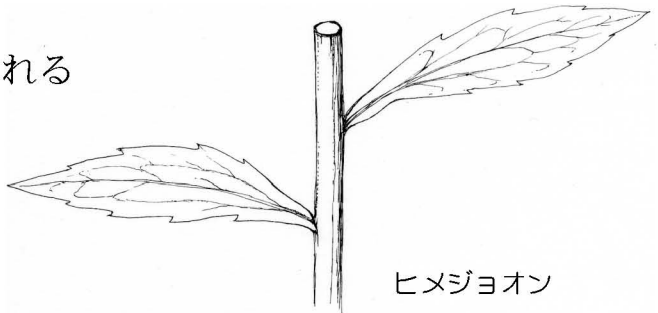
花の時期：4—5月

食べ方：若葉をゆでるとおひたしで食べられる。

見分け方：ヒメジョオンとは、茎が中空^{くき ちゅうくう}であること、葉の根本^{ねもと}の部分が茎のまわりに広がることで区別できる。関東南部ではヒメジョオンは5月下旬から咲きはじめるので、その前ならばハルジオン。



ハルジオン



ヒメジョオン

見つけやすさ ★

見分けやすさ ★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★

(★が多いほど、量が少なく、

見分けにくく、難易度が高い)



ハルジオン



ヒメジョオン